

## No.4 ICTを活用した災害復旧の迅速な対応について

- 【現状】**
- 災害発災後は災害査定までおよそ2カ月間と限られた期間の中で、迅速かつ効率的に測量、設計、積算を実施する必要がある。
  - 従来の現地測量では斜面崩壊をはじめとする不安定な斜面等で人力による作業を行うため、2次災害の危険性がある。
  - 大規模な災害の際は被災箇所が多くなり、現在の手法では調査の人手不足が危惧される状況（従来のやり方では地元コンサル担当の対応が難しくなる可能性大）

- 【ニーズ】**
- UAVなどのICT技術を活用した調査（測量等）により、外業にかかる時間、人工の削減と人力作業による危険性の回避。
  - ICTを活用した調査（測量等）から積算・設計までの一連の流れを整備。（限られた時間の中、見積徴収は現実的でない）



樹木等で測量等に制約のある被災現場



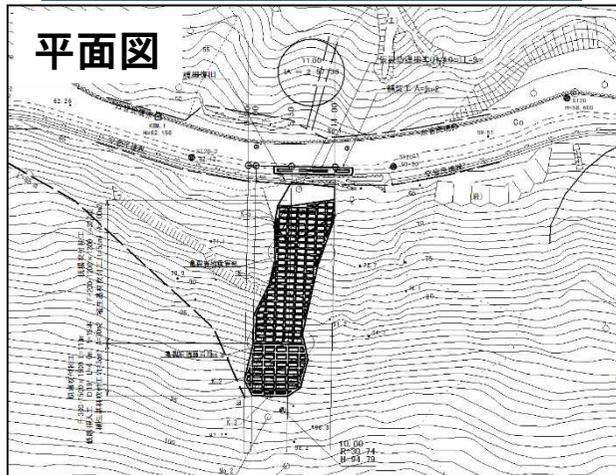
危険な斜面での調査作業

# No.4 ICTを活用した災害復旧の迅速な対応について

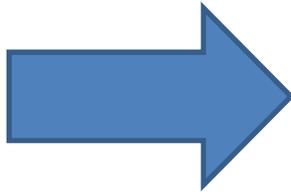
## 【期待するシーズ】

- 山間部の市道等でみられる急峻で入り組んだ地形や生い茂った樹木など制約がある被災現場においてICTを活用した調査、測量等ができる技術。
- 調査、測量データを活用した設計までの手法を標準化。  
⇒機器類の普及により導入コストの低減が期待できる。
- 上記手法の確立にあわせて積算基準を整備。

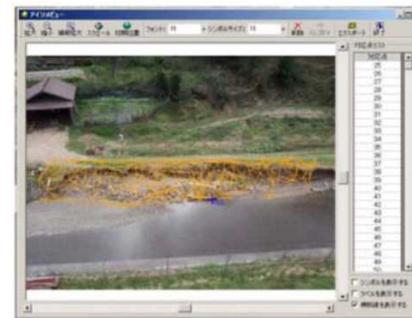
## 災害査定時に必要な図面



## ICT技術の活用



## 測量結果の図面化

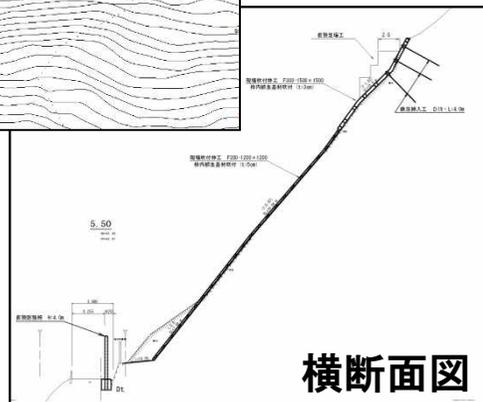
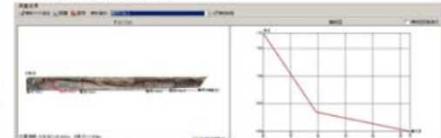


### ・横断面作成

(1) 横断面 No. 1 (対応点推定)



(2) 横断面 No. 2 (対応点推定)



横断面図

※出典：災害復旧に活用できるICTの種類と特徴  
(国土交通省水管理・国土保全局 防災課)